

企業の環境情報開示のあり方に係る検討委員会

欧州動向について

平成22年12月17日

経済産業省 経済産業政策局 企業会計チーム長
平塚 敦之

1. CSRに対する現状認識（特に情報開示の側面から）

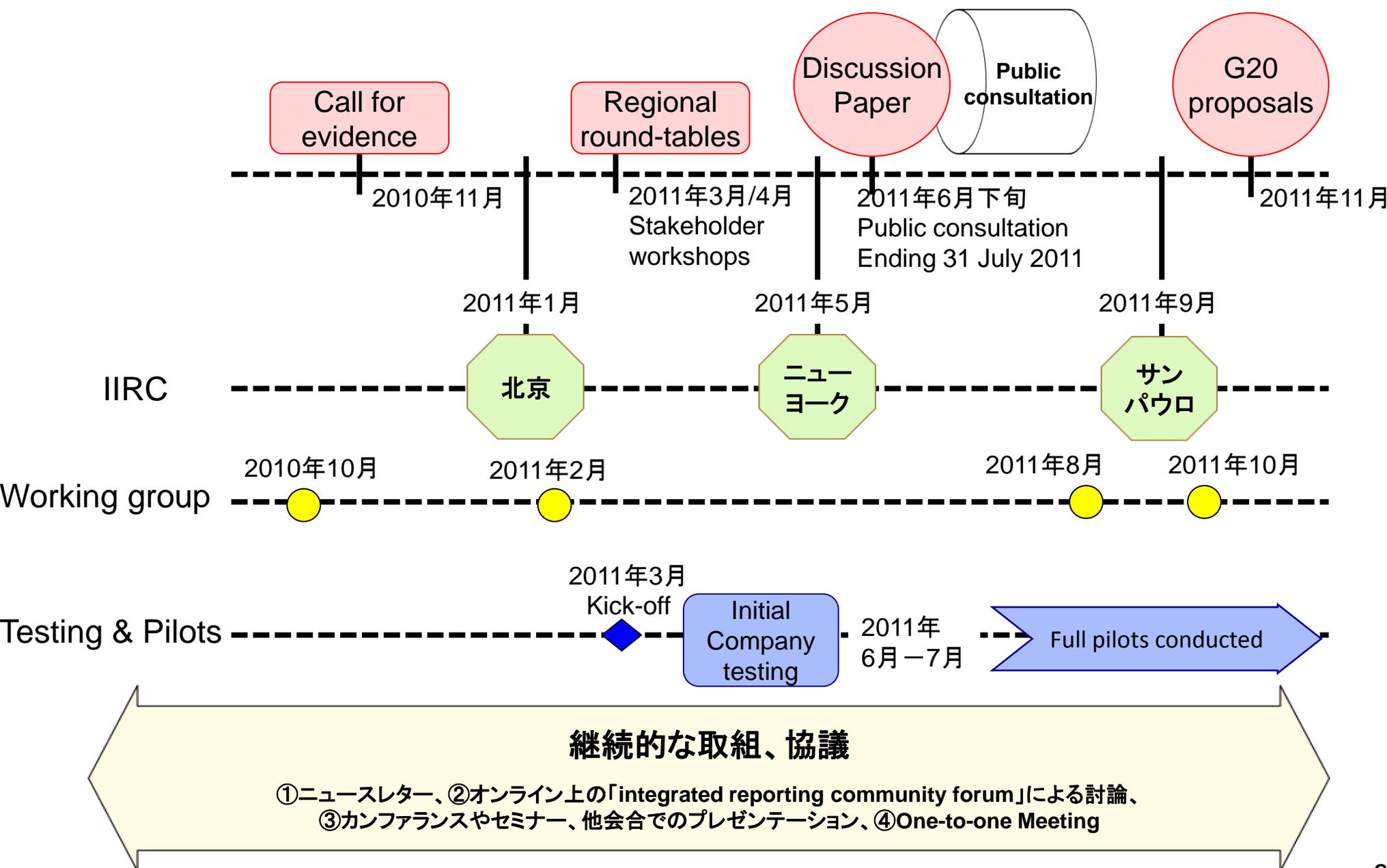
- ◆ 欧州では企業に対して、経済面のみならず、社会・環境面への貢献が期待されており、市場が社会・環境面での価値創造に報いるようになることで、CSRは経済的価値と社会的価値の両立を実現する取組になるとの認識。
- ◆ 上記のような市場の評価をサポートするために、財務情報と環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)等の非財務情報を一体化させ、統合報告書として開示させようとの動きがあり、この8月に「Accounting for Sustainability (A4S)*¹」と「Global Reporting Initiative (GRI)*²」という、国際的に大きな影響力を有するイニシアティブが共同で、「International Integrated Reporting Committee (IIRC)」を創設し、この動きを加速させようとしている。
 - (※1) 英国チャールズ皇太子が立ち上げたプロジェクトで、企業、投資家、政府、会計士団体、市民社会、学識者等の多くのステークホルダーが参加。企業パフォーマンスにおける非財務情報の位置づけを明確にした上で、財務情報と非財務情報の統合報告フレームワークの必要性についての共通認識を醸成することを目的としている。
 - (※2) 環境NGOのセリーズがUNEPに呼びかけて設立し、企業、環境保護活動家、会計士、業界団体が参加している。持続可能性報告のためのフレームワークの開発と普及を目的とし、組織が経済、環境及び社会パフォーマンスを測定し、報告するにあたっての原則と指標を提示している。GRIが開発したフレームワーク(G3)は世界で最も広範に利用されている。
- ◆ CSRの取組は欧州が先行しており、2010年までの10年間の成長戦略に引き続き、2020年までの次期成長戦略「欧州2020」においても、CSRを「知的で持続可能で包摂的な成長」に向けた欧州戦略における重要な課題と位置づけている。
- ◆ 欧州委員会は、本年11月末にマルチステークホルダー会議を開催。来年前半に政策(コミュニケーション)をまとめ、会計現代化指令を改正する予定。
- ◆ 欧州議会議員の Richard Howitt氏が来日された際に、弊省幹部と面談。欧州委員会はIIRCの活動を支援し、来年フランスで開催されるG20にて統合報告書をテーマとして取り上げ、2020年までに統合報告に関する国際的イニシアティブを策定する事を目指している(企業・産業総局F局のOrtun局長も同席)。
- ◆ また、本年11月22日、欧州委員会(域内市場・サービス総局)は、非財務情報の開示は金融危機や持続可能な発展との関連で重要との認識の下、企業による非財務情報の開示を改善する方法に関して、利害関係者の見解を募るため、コンサルテーションを開始。企業総局とも連携が行われているとの話。

2. 統合報告① (IIRCが提唱する統合報告書の目的)

統合報告書の目的 ~IIRCプレスリリース(8/2)より~

- ①重要決定の広範で長期的な結果を示すことにより、長期的なリターンを目指す投資家のニーズを満たす。
- ②長期的なパフォーマンスおよび事業状況を左右する意思決定における、環境・社会・ガバナンスと財務的要素の相互関係を反映させ、サステナビリティと経済的価値の関連性を明らかにする。
- ③報告や意思決定にあたり、環境側面や社会的側面を考慮するための体系的フレームワークを提供する。
- ④短期的な財務業績を過度に重視する傾向にバランスをもたらす。
- ⑤企業報告を、経営者が日常的な事業運営を行うために活用している情報に近づける。

2. 統合報告② (IIRCの今後のスケジュール)



3. EU マルチステークホルダーフォーラム2010報告（11月29日、30日開催）

Reporting & Disclosure

域内市場総局が企業の非財務情報に関するコンサルテーションを実施

- ◆バルニエ域内市場担当欧州委員に意欲あり。域内市場総局の代表からの11月22日にスタートしたコンサルテーションに回答してほしいというのが最も重要なメッセージ。“コンサルテーションに参加することが大切!!”
- ◆GRI, Eurosif, IIRC International Integrated Reporting Committee 国際統合報告委員会 (A4S &GRI), EFFAS (欧州証券アナリスト協会) を中心にイニシアティブの力比べの印象。

デンマークモデルへの多数の合意

- ◆デンマーク政府の代表からは「高い理想の実現には何十年もかかる分野。スケルトンから始めて肉付けを徐々に行こう!」の意見。
- ◆これに対し、GRI含む多くの賛同あり。

“賛成”

デンマーク政府、GRI、Eurosif、NGO
Trade Union、Telefonica
Solvay

4. 非財務情報に関するコンサルテーション（締切1月24日）

参考資料

オンラインコンサルテーション（域内市場総局担当）

http://ec.europa.eu/internal_market/consultations/2010/non-financial_reporting_en.htm

質問事項 12の質問：選+自由記述

1. 貴国の非財務情報の開示の現状について
2. 非財務情報の開示に伴うコスト、効果などについて評価したことがあるか
3. 現状の非財務情報の開示の向上を望むのであればどの点で改善が必要だと思うか
4. どの様な開示を望むか（選択式）
5. マテリアリティと比較可能性がもたらされる開示方法をとするためには何を基準にすべきか（原則・KPI・その他）

4. 非財務情報に関するコンサルテーション（締切1月24日）

6. 適切な原則や指標はどの様なプロセスによって決めることができると思うか。既存のイニシアティブ（GRI, UNGC, OECD, ISO26000）について欧州委員会は推奨あるいは言及したほうが良いか。企業は投資家やステークホルダとの対話によって適切な指標を選択し情報開示したほうが良いと思うか
7. 企業はいかに人権尊重の責任を果たしているか、そのステップについて情報を開示すべきだと思うか
8. 汚職・賄賂に関する経験したリスクや方針について開示すべきか
9. どの様な企業が非財務情報開示の義務を負わなくてはならないか
10. 機関投資家はいかに非財務情報を投資に活用しているかなど開示義務を負うべきか（どの様な情報が重要か、その理由は？対象者は？）
11. 欧州政策として”統合レポート”を推進すべきか
12. 開示された非財務情報は外部監査を受けるべきか
13. 追加資料添付